

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	医学系研究科看護学専攻博士後期課程の設置										
フリガナ設置者	コクリツカクイカクワジシマノカク 国立大学法人 島根大学										
フリガナ大学の名称	シマノカクイカク 島根大学大学院(Graduate School of Shimane University)										
大学本部の位置	島根県松江市西川津町1060										
大学の目的	豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と高度な専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行う。										
新設学部等の目的	高水準で独創的な超高齢看護学研究を自立して実施し、超高齢看護学の発展に寄与できる教育研究者の育成を目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 医学部看護学科 看護学専攻修士課程 14条特例の実施		
	医学系研究科 [Graduate School of Medical Research] 看護学専攻博士後期課程 [Major in Nursing Science Doctoral Course]	年	人	年次人	人	博士 (看護学)	年 月 第 年次 平成28年4月 第1年次	島根県出雲市塩冶町89番1			
	計	-	2	-	6						
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 平成28年4月 大学院医学系研究科を次のとおり改組予定 (改組前) 医学系研究科 (博士課程) 医科学専攻 3 0 計 3 0 (修士課程) 医科学専攻 1 5 看護学専攻 1 2 計 2 7 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (改組後) 医学系研究科 (博士課程) 医科学専攻 3 0 (博士後期課程) 看護学専攻 2 (新設) 計 3 2 (修士課程) 医科学専攻 1 5 (博士前期課程) 看護学専攻 1 2 (名称変更) 計 2 7 </td> </tr> </table>									平成28年4月 大学院医学系研究科を次のとおり改組予定 (改組前) 医学系研究科 (博士課程) 医科学専攻 3 0 計 3 0 (修士課程) 医科学専攻 1 5 看護学専攻 1 2 計 2 7	(改組後) 医学系研究科 (博士課程) 医科学専攻 3 0 (博士後期課程) 看護学専攻 2 (新設) 計 3 2 (修士課程) 医科学専攻 1 5 (博士前期課程) 看護学専攻 1 2 (名称変更) 計 2 7
平成28年4月 大学院医学系研究科を次のとおり改組予定 (改組前) 医学系研究科 (博士課程) 医科学専攻 3 0 計 3 0 (修士課程) 医科学専攻 1 5 看護学専攻 1 2 計 2 7	(改組後) 医学系研究科 (博士課程) 医科学専攻 3 0 (博士後期課程) 看護学専攻 2 (新設) 計 3 2 (修士課程) 医科学専攻 1 5 (博士前期課程) 看護学専攻 1 2 (名称変更) 計 2 7										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	医学系研究科 看護学専攻博士後期課程	講義 科目 16	演習 科目 2	実験・実習 科目 0	計 科目 18	単位 16					
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等			
	新設	医学系研究科 看護学専攻博士後期課程	教授 人 13 (13)	准教授 人 3 (3)	講師 人 1 (1)	助教 人 0 (0)	計 人 17 (17)	助手 人 0 (0)	兼任教員等 人 3 (3)		
		計	13 (13)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	-		
	既設	医科学専攻（博士課程）	45 (45)	24 (24)	14 (14)	6 (6)	89 (89)	0 (0)	0 (0)		
		医科学専攻（修士課程）	41 (41)	18 (18)	6 (6)	1 (1)	66 (66)	0 (0)	0 (0)		
		看護学専攻（修士課程）	9 (9)	3 (3)	9 (9)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	0 (0)		
		計	95 (95)	45 (45)	29 (29)	7 (7)	176 (176)	0 (0)	0 (0)		
合計		108 (108)	48 (48)	30 (30)	7 (7)	193 (193)	0 (0)	-			

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計		大学全体			
	事 務 職 員		292 (292)	0 (0)	292 (292)					
	技 術 職 員		971 (971)	0 (0)	971 (971)					
	図 書 館 専 門 職 員		15 (15)	0 (0)	15 (15)					
	そ の 他 の 職 員		14 (14)	0 (0)	14 (14)					
	計		1292 (1292)	0 (0)	1292 (1292)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体			
	校 舎 敷 地	222,830㎡	㎡	㎡	222,830㎡					
	運 動 場 用 地	85,766㎡	㎡	㎡	85,766㎡					
	小 計	308,596㎡	㎡	㎡	308,596㎡					
	そ の 他	74,906㎡	㎡	㎡	74,906㎡					
	合 計	383,502㎡	㎡	㎡	383,502㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体				
	137,135㎡ (137,135㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	137,135㎡ (137,135㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	69室	140室	247室	8室 (補助職員 4人)	2室 (補助職員1人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		大学全体				
	医学系研究科看護学専攻博士後期課程			13 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数		
	医学系研究科看護学専攻博士後期課程	915,702 [220,283] (915,702 [220,283])	2,609 [297] (2,609 [297])	13,960 [12,536] (13,960 [12,536])	2,707 (2,707)	30,355 (30,355)	19 (19)			
	計	915,702 [220,283] (915,702 [220,283])	2,609 [297] (2,609 [297])	13,960 [12,536] (13,960 [12,536])	2,707 (2,707)	30,355 (30,355)	19 (19)			
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	9,058㎡	869		911,450						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体			
	3,875㎡	野 球 場 2 面 テニスコート 15 面								
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による
		教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図書購入費								
	設備購入費									
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	千円	千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要										
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	島根大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	法文学部	年	人	年次人	人		倍		島根県松江市西川津町1060	
	法経学科	4	90	—	360	学士（法経）	1.02	平成16年度		
	社会文化学科	4	70	—	280	学士（社会科学）	1.02	平成16年度		
言語文化学科	4	65	—	260	学士（文学）	1.1	平成16年度			
各学科共通				3年次 10						
教育学部										

既設大学等の状況	学校教育課程	4	170	—	680	学士（教育学）	1.02	平成16年度	島根県出雲市塩冶町79-1	※医学科は平成23年度より入学定員変更
	医学部									
	医学科	6	102	—	610	学士（医学）	1	平成15年度		
	看護学科	4	60	—	240	学士（看護学）	1.03	平成15年度		
	各学科共通			3年次	20					
	総合理工学部								島根県松江市西川津町1060	※平成24年度より学生募集停止
	物質科学科	4	130	—	520	学士（総合理工学）	1.03	平成7年度		
	地球資源環境学科	4	50	—	200	学士（総合理工学）	1.02	平成7年度		
	数理・情報システム学科	4	100	—	400	学士（総合理工学）	1.09	平成7年度		
	電子制御システム工学科	4	—	—	—					
	材料プロセス工学科	4	—	—	—					
	機械・電気電子工学科	4	80	—	320	学士（総合理工学）	1	平成24年度		
	建築・生産設計工学科	4	40	—	160	学士（総合理工学）	1.2	平成24年度		
	各学科共通			3年次	12					
	生物資源科学部								島根県松江市西川津町1060	※平成24年度より学生募集停止
	生物科学科	4	30	—	120	学士（生物資源科学）	1.06	平成7年度		
	生態環境科学科	4	—	—	—					
	生命工学科	4	40	—	160	学士（生物資源科学）	1	平成7年度		
	農業生産学科	4	—	—	—					
	地域開発科学科	4	—	—	—					
	農林生産学科	4	85	—	340	学士（生物資源科学）	1.01	平成24年度		
	地域環境科学科	4	45	—	180	学士（生物資源科学）	1.06	平成24年度		
	各学科共通			3年次	20					
	人文社会科学研究科 （修士課程）								島根県松江市西川津町1060	
	法経専攻	2	6	—	12	修士（法学） 修士（経済学）	1.5	平成16年度		
	言語・社会文化専攻	2	6	—	12	修士（社会科学） 修士（言語文化）	1	平成16年度		
教育学研究科 （修士課程）								島根県松江市西川津町1060		
教育実践開発専攻	2	20	—	40	修士（教育学）	0.7	平成20年度			
教育内容開発専攻	2	20	—	40	修士（教育学）	0.55	平成20年度			
医学系研究科 （修士課程）								島根県出雲市塩冶町79-1		
医科学専攻	2	15	—	30	修士（医科学）	0.8	平成16年度			
看護学専攻	2	12	—	24	修士（看護学）	1	平成15年度			
医学系研究科 （博士課程）								島根県出雲市塩冶町79-1	※平成21年度より学生募集停止	
医科学専攻	4	30	—	120	博士（医学）	1.16	平成20年度			
機能系専攻	4	—	—	—						
総合理工学研究科 （博士前期課程）								島根県松江市西川津町1060		
総合理工学専攻	2	124	—	248	修士（総合理工学） 修士（理学） 修士（工学）	1.01	平成24年度			

既設大学等の状況	総合理工学研究科 (博士後期課程) 総合理工学専攻	3	12	—	24	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.83	平成26年度	島根県松江市西川津町1060	※平成26年度より学生募集停止
	マテリアル創成工学専攻		—	—	—					
	電子機能システム工学専攻		—	—	—					
	生物資源科学研究科 (修士課程)								島根県松江市西川津町1060	※平成27年度より学生募集停止
	生物生命科学専攻	2	20	—	40	修士(生物資源科学)	1.2	平成20年度		
	農林生産科学専攻	2	22	—	44	修士(生物資源科学)	0.45	平成20年度		
	環境資源科学専攻	2	18	—	36	修士(生物資源科学)	1	平成20年度		
法務研究科 (専門職学位課程) 法曹養成専攻	3	—	—	—				島根県松江市西川津町1060		
附属施設の概要	<p>(附属学校)</p> <p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、幼児に関する研究を行うこと。 教育学部の計画に従って、学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 教育研究の成果を広く公開し、地域の幼児教育の振興に寄与すること。 所在地：島根県松江市大輪町416-4 設置年月：昭和26年4月 規模等：建物 912㎡</p> <p>名称：教育学部附属小学校 目的：教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、初等教育開発講座教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験、実証を行うこと。 教育学部の計画に従って、学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 教育研究の成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教育に協力して、地域の小学校教育の発展に寄与すること。 所在地：島根県松江市大輪町416-4 設置年月：昭和26年4月 規模等：建物 7,364㎡</p> <p>名称：教育学部附属中学校 目的：教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、中等教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験、実証を行うこと。 教育学部の計画に従って、学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 教育研究の成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教育に協力して、地域の中学校教育の進展に寄与すること。 所在地：島根県松江市菅田町167-1 設置年月：昭和26年4月 規模等：建物 6,992㎡</p> <p>(学部等の附属施設)</p> <p>名称：法文学部山陰研究センター 目的：法文学部を中心とした、山陰地域における人文・社会科学の研究拠点として、資料の収集及び研究を積極的に推進し、その研究成果を公表することにより、地域の産業経済及び文化の発展に寄与すること。 所在地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成16年4月 規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>									

附属施設の概要	<p>名称：教育学部附属教育支援センター</p> <p>目的：授業科目の履修指導，生活指導及び教育体験活動にかかる学生指導を通じ，学生の教育実践力を特段に高めるとともに，他の教育機関及び地域社会と連携を図り，学生の教育臨床的態度・技能の指導及び地域社会の教育臨床的問題解決に貢献する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成16年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部</p>	
	<p>名称：教育学部附属教師教育研究センター</p> <p>目的：全学の教職課程を担当し，教職科目の改善を図り，教職課程関連カリキュラムを一元的に管理・運営するとともに，現職教員の資質能力向上に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成19年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部</p>	
	<p>名称：教育学部附属FD戦略センター</p> <p>目的：教育学部における教員養成教育の改善，充実に資する教育課程の再編，授業の改善及び事業の企画・実施等のFD（ファカルティ・ディベロップメント）の活動を企画・立案，実施することを通して，山陰地域における教員養成基幹学部としての使命を達成する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成19年6月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部</p>	
	<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：診療を通じて医学の教育及び研究に資する。</p> <p>所在地：島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：昭和54年4月</p> <p>規模等：建物 57,972㎡（附属病院棟）</p>	
	<p>名称：医学部教育企画開発室</p> <p>目的：医学・看護学教育の向上に資するための方策を総合的に企画・立案し，その充実を図る。</p> <p>所在地：島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：平成16年4月</p> <p>規模等：</p>	
	<p>名称：生物資源科学部附属生物資源教育研究センター</p> <p>目的：生物資源科学部の附属教育研究施設として，農学・農業，林学・林業及び日本海における生物・海洋に関する教育・研究並びに森林・耕地・海洋を結ぶ生態系をめぐる物質循環の解明などを学際的に科学する教育・研究を行う。</p> <p>所在地：（本部，農業生産科学部門）島根県松江市上本庄町2059 （森林科学部門）島根県大田市三瓶町多根941-1 （農業生産科学部門）島根県出雲市神西沖町字蛇島2473-1 （海洋生物科学部門）島根県隠岐郡隠岐の島町加茂194</p> <p>設置年月：平成9年4月</p> <p>規模等：建物 8,374㎡（総計）</p>	
	<p>（教育・学生支援機構）</p> <p>名称：教学企画IR室</p> <p>目的：本学の教育及び学生支援に関する諸データの統合的分析と情報提供・助言等を行い，島根大学教育・学生支援機構の各センターの機能向上を図り，本学の教育活動の充実発展に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 学生センターの一部</p>	
	<p>名称：教育開発センター</p> <p>目的：大学教育に関する研究・開発及び企画並びに評価を行うとともに，全学に共通する教育の適正な実施運営を統括し，もって本学の教育活動の充実発展に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究室棟 16,554㎡の一部</p>	

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：外国語教育センター</p> <p>目的：外国語教育の知的拠点として、言語的コミュニケーション能力を培う教育を行うことのほか、外国語教育を通じて総合的な知性・教養・人格を形成し、異文化理解と共生文化の創造に資する教育を行う。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究室棟 16,554㎡の一部</p>
	<p>名称：生涯教育推進センター</p> <p>目的：生涯学習に関する教育及び研究を行うとともに、本学における教育研究の成果を広く社会に開放し、よりよい生涯学習社会の実現に資する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 総合理工学部2号館の一部</p>
	<p>名称：入学センター</p> <p>目的：入学者選抜及び高大接続の改善・開発を行い、もって主体的に学び自らを高めようとする学生を確保する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 学生センター 1,400㎡の一部</p>
	<p>名称：キャリアセンター</p> <p>目的：学生のキャリア形成及び就職活動をより円滑に推進するため、全学的立場から支援する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 学生支援センター 656㎡の一部</p>
	<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、学生及び職員の健康の保持増進を図る。</p> <p>所在地：(松江) 松江市西川津町1060 (出雲) 出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 (松江) 479㎡ (出雲) 大学会館 (出雲) 1,998㎡の一部</p>
	<p>名称：学生支援センター</p> <p>目的：学生支援業務を統括的に取り扱い、もって学生生活の充実に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 学生支援センター 656㎡の一部</p>
	<p>(研究機構)</p> <p>名称：戦略的研究推進センター</p> <p>目的：本学が有する知的資産と知的創造力を活用し、地域に密着した個性的な研究及び国際水準の独創的な研究を集中的かつ戦略的に推進し、その成果を教育に反映するとともに広く社会に還元する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：</p>
	<p>名称：汽水域研究センター</p> <p>目的：汽水域の自然・人文・社会環境の研究等及び汽水域に関する総合的かつ学際的な研究を推進し、本学の教育研究活動及び学術交流の活性化を図るとともに、その研究成果を公表することにより、地域社会の発展及び国際学術交流の振興に資する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>
	<p>名称：産学連携センター</p> <p>目的：本学と企業、地方公共団体等外部の機関との研究や知的財産などの活用面における連携を推進し、本学の教育研究の進展に資するとともに、地域社会における産業技術の振興及び発展に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市北陵町2</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 1,141㎡</p>

附属施設の概要	<p>名称：総合科学研究支援センター</p> <p>目的：生命，環境，物質・材料創成及びその融合領域に関する総合的な科学研究の深化を図るとともに，各学部等における研究を支援する。</p> <p>所在地：（松江キャンパス）島根県松江市西川津町1060 （出雲キャンパス）島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：（遺伝子機能解析部門・松江）建物 遺伝子実験施設 1,514㎡の一部 （実験動物部門・出雲）建物 RI・動物実験施設 3,944㎡の一部 （生体情報・RI実験部門・出雲）建物 共同研究棟 2,312㎡ 第二研究棟 3,715㎡の一部 RI・動物実験施設 3,944㎡の一部 （物質機能分析部門・松江）建物 総合理工学部1・2・3号館の一部</p>
	<p>（国際交流機構）</p> <p>名称：国際交流センター</p> <p>目的：本学の国際化及び国際交流の推進に向けて，各種事業の企画・立案するとともに，外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し，積極的な支援等を行うことにより，本学の国際交流の推進に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 学生センター 1,400㎡の一部</p>
	<p>名称：島根大学・寧夏大学国際共同研究所</p> <p>目的：都市と農村との地域間格差問題，中山間地域（条件不利地域）の活性化，開発と環境問題などを主要なテーマとして共同研究を行い，研究成果をアジアをはじめとする世界に発信するとともに，人材の育成・交流の積極的な展開，国内外の研究者に開かれた中国・西部地域研究の拠点づくりを目指す。</p> <p>所在地：中国，寧夏，銀川市西夏区賀蘭山西路489号 寧夏大学A区</p> <p>設置年月：平成16年4月</p> <p>規模等：建物 2,794㎡</p>
	<p>（学術情報機構）</p> <p>名称：附属図書館</p> <p>目的：図書，学術雑誌その他必要な資料を収集，組織，保管し，これを利用者の教育・研究・学習等の要求に対して提供し，併せて学術情報システム活用の中核として機能することにより，島根大学における教育研究活動を支援するとともに，地域社会の知的情報拠点としての役割を果たす。</p> <p>所在地：（本館）島根県松江市西川津町1060 （医学図書館）島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：（本館）平成25年4月 （医学図書館）平成25年4月</p> <p>規模等：（本館）建物 6,834㎡ （医学図書館）建物 1,819㎡</p> <p>名称：総合情報処理センター</p> <p>目的：センターに置かれた情報処理システムを整備運用し，学内外の情報ネットワークとの連携を図り，本学における教育，研究その他の情報処理のための利用に供するとともに，学術情報システム等の開発を行い，あわせて人材の育成を支援し，本学における情報処理の進展に資する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 683㎡</p> <p>名称：ミュージアム</p> <p>目的：本学における標本資料類などを大学所有の有形知的財産として位置づけ，それらを収集，整理・保管及び調査研究をしたうえで，展示公開などによる教育，普及啓発，情報発信の促進及び地域貢献を行う。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物 155㎡</p> <p>名称：地域課題学習支援センター</p> <p>目的：本学が実施する地（知）の拠点整備事業（COC事業）において，地域協創型人材の育成に資するための地域課題解決型教育を推進するとともに，自治体と連携し地域課題の解決に貢献する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成25年10月</p> <p>規模等：建物 総合理工学部2号館の一部</p>

<p>附属施設の概要</p>	<p>名 称：山陰法実務教育研究センター 目 的：本学が有する知的資産を有効に活用し山陰地域における法実務教育を行うとともに、そのための教育プログラム及び教育研究体制に関する調査研究を行い、もって山陰地域における方角教育の充実発展に寄与する。 所 在 地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成26年2月 規 模 等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>	
----------------	--	--

設置認可に係る組織の移行表

平成27年度	入学定員		平成28年度	入学定員	変更の事由
島根大学			島根大学		
医学部			医学部		
医学科	102		医学科	102	
看護学科	60		看護学科	60	
島根大学大学院			島根大学大学院		
医学系研究科			医学系研究科		
(修士課程)			(修士課程)		
医科学専攻	15	→	医科学専攻	15	
(博士課程)			(博士課程)		
医科学専攻	30		医科学専攻	30	
(修士課程)			<u>(博士前期課程)</u>		名称変更
看護学専攻	12		看護学専攻	12	
			<u>(博士後期課程)</u>		課程の設置
			<u>看護学専攻</u>	<u>2</u>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	超高齢看護開発特講	1前	2			○			3	1				兼1	オムニバス
	安全ケアシステム開発特講	1前	2			○			3	1				兼1	オムニバス
	研究方法特講	1前	2			○			6					兼1	オムニバス
	超高齢看護学研究演習	1通	2				○		13	3	1				共同
	超高齢看護学特別研究	1～3通	6				○		13	3	1				共同
	小計（5科目）	—	—	14	0	0	—	—	—	13	3	1	0	0	兼3
関連 科目	地域がん治療学	1後		2		○								兼7	オムニバス
	がん医療社会学	1後		2		○								兼7	オムニバス
	緩和ケア学	1後		2		○								兼3	オムニバス
	環境医学Ⅰ	1後		2		○								兼1	
	環境医学Ⅱ	1後		2		○				1				兼2	オムニバス
	医学・医療情報学Ⅰ	1後		2		○								兼3	オムニバス
	地域医療学Ⅰ	1後		2		○								兼4	オムニバス
	地域医療学Ⅱ	1後		2		○								兼3	オムニバス
	総合診療学Ⅰ	1後		2		○								兼3	オムニバス
	総合診療学Ⅱ	1後		2		○								兼3	オムニバス
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	1後		2		○								兼10	オムニバス
	知的財産と社会連携	1後		2		○								兼2	オムニバス
	機能的物質・食品の医療応用と環境影響	1後		2		○					2			兼10	オムニバス
小計（13科目）	—	—	0	26	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼37	
合計（18科目）		—	14	26	0	—	—	—	13	3	1	0	0	兼39	
学位又は称号	博士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了要件は博士後期課程に3年以上在学し、専門科目の必修科目14単位、関連科目の選択科目から2単位以上の合計16単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格すること。 ※関連科目は、医学系研究科医科学専攻博士課程の開講科目であり、看護学専攻博士後期課程の学生も履修できるものとして位置付けている。							1学年の学期区分				2期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(医学部看護学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基礎科目	英語	英語 I A	1前	1				○							兼1	
		英語 I B	1後	1				○							兼1	
		英語 II A	1前	1				○							兼1	
		英語 II B	1後	1				○							兼1	
	外国語	初修外国語	ドイツ語 I (※1)	1前		2			○							兼1
			ドイツ語 II	1後			2			○						兼1
			フランス語 I (※1)	1前		2				○						兼1
			フランス語 II	1後			2			○						兼1
			中国語 I (※1)	1前		2				○						兼1
			中国語 II	1後			2			○						兼1
			韓国・朝鮮語 I (※1)	1前		2				○						兼1
	韓国・朝鮮語 II	1後			2			○						兼1		
	文 化 ・ ア ル ト ・ ス ポ ー ツ	健康・ スポーツ	健康・スポーツ科学概論 I	1前	2				○		1					兼6 オムニバス
スポーツ実習 I			1前	1					○						兼1	
	情報科学	情報科学概論	1前	2				○							兼4	
		情報科学演習	1後	1					○						兼4	
小計 (16科目)			—	10	8	8		—		1	0	0	0	0	兼19	
教 養 育 成 科 目	入門科目	人文社会科学分野 家族集団の形成と発達 (他学部開講科目は省略)	1後		2			○							兼1	
		自然科学分野 統計学入門	1前		2			○		1					兼1	
		生物有機化学	1前		2			○							兼1	
		細胞生物学 (他学部開講科目は省略)	1前	2				○							兼2	
		学際分野 (他学部開講科目のため省略)	(※2)													
	発展科目	人文社会科学分野 臨床心理 (他学部開講科目は省略)	4後		2			○							兼6	
		自然科学分野 (他学部開講科目のため省略)														
		学際分野 (他学部開講科目のため省略)														
		社会人養成科目 (他学部開講科目のため省略) (※3)					※3								(※3) 社会人養成科目は 必修単位に含めることは できない。	
	小計 (5科目) (他学部開講科目を除く)			—	2	8			—		1	0	0	0	0	兼10

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	専門基礎科目	看護英語Ⅰ	2前	1				○								兼1	オムニバス	
		看護英語Ⅱ	2後	1				○								兼1		
		人間心理Ⅰ	1前	2			○											兼1
		人間心理Ⅱ	1後			2	○											兼1
		感染と免疫	1後	2			○			1	1							兼3
		生命科学の歴史と倫理	1前	2			○			3								兼11
		形態と機能Ⅰ	1通	2					○	1								
		形態と機能Ⅱ	1後	2				○		1								
		環境保健学	1前	2				○		1								兼1
		栄養と代謝	1後	2				○		1	1							兼1
		病理学の基礎	2前	2				○		2								兼2
		保健福祉行政論	2後	2				○		1								兼5
		社会福祉論	1前			2	○											兼1
		薬理と薬剤	2前	2				○		1								
		疾病論Ⅰ	2前	2				○		1								兼3
		疾病論Ⅱ	2前	2				○		1								兼4
		疾病論Ⅲ	2前	2				○		1								兼11
		疫学・衛生統計	2後	2				○										兼4
		保健社会学	4後			2	○											兼3
		障害福祉論	2前			2	○			1				1				
		海外研修A				1			○									
		海外研修B				1			○									
		海外研修C				1			○									
小計(23科目)		—	30	0	11	—			6	1	0	1	0	兼48				
専門教育科目	専門科目	看護学原論	1前	2			○		1							チュートリアル		
		援助関係論演習	1後	1				○	1	2			2				兼1	
		ヘルスアセスメント技術演習	1後	1					○	2	2			2				兼1
		看護理論	2前	2				○	1	1								
		看護過程論演習	2前	1					○		2			2			兼1	
		日常生活援助技術演習	2前	2					○	2	2			2			兼1	
		診療時援助技術演習	2後	1				○		2	2			2			兼2	
		成人看護学概論	2後	2				○		1								
		成人看護学援助論Ⅰ	3前	2					○			1	1				兼1	
		成人看護学援助論Ⅱ	3前	2					○	1	1	1	1					
		老年看護学概論	2後	2				○		1							兼1	
		老年看護学援助論	3前	2					○	1		1		1			兼2	
		小児看護学概論	2後	2				○			1							
		小児看護学援助論	3前	2					○	1	1			1			兼5	
		母性看護学概論	2後	2				○		1	1			1				
		母性看護学援助論	3前	2					○	1		1	1					
		精神看護学概論	2後	2				○			1							
		精神看護学援助論	3前	2					○		1			1			兼2	
		在宅看護学	3前	2					○			1						
		地域看護学概論	2前	2				○		1							兼3	
		地域看護学活動論	2後	2					○			1	1	1			兼3	
学校保健	3前	2					○	1		1				兼2				
地域看護学演習	4前	1					○	1		1	1	1		兼8				
地域看護管理論	4後	1				○		1						兼2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	看護情報学	3前	2			○				1					兼1	助産師又は養護教諭一種の資格を得ようとする者は、家族看護論は必修 オムニバス
	看護研究方法論	3前	1				○		1	1			4			
	卒業研究	4通	2				○		8	4	6	9	1			
	看護管理論	4後	2			○			1							
	看護カウンセリング論	4後			2	○			1	1						
	家族看護論	4後			2	○			1	1	1					
	緩和ケア論	4後			2	○			2							
	クリティカルケア論	4後			2	○					1					
	看護理論講読	4後			1	○			3	1	2					
	看護教育論	4後			1	○			1	1	1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	2	2			2		兼1	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○	2	2			2		兼3	
	成人看護学実習Ⅰ	3後	3					○	1		1	1				
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3					○	1			1				
	老年看護学実習Ⅰ	3後	3					○	1		1	1				
	老年看護学実習Ⅱ	4前	1					○	1		1	1				
	小児看護学実習	3後	2					○		1		1				
	母性看護学実習	3後	2					○	1		1	1				
	精神看護学実習	3後	2					○		1		1				
	在宅看護学実習	4前	1					○	1		3	2	1			
	地域看護学実習Ⅰ	4前	3					○	1		2	1	1		兼6	
	地域看護学実習Ⅱ	4前	1					○	1		1	1	1		兼1	
	看護学総合実習Ⅰ	3後	1					○	8	4	6	9	1			
看護学総合実習Ⅱ	4後	1					○	8	4	6	9	1				
小計（48科目）		—	75	0	10		—	8	4	6	9	1		兼33		
助産科目	助産学概論*	2後			2	○			1						助産師の資格を得ようとする者は、卒業要件単位（127単位）の他に全ての科目（19単位）を取得すること。*の科目については、他の学生も選択できる。	
	助産診断技術学Ⅰ	3前			2	○					1			兼1		
	助産診断技術学Ⅱ	3前			2		○				1			兼2		
	助産過程論	3前			1	○			1							
	助産業務管理*	4後			1				1							
	助産学実習	4通			11				1		1	1				
小計（6科目）		—	0	0	19		—	1	0	1	1	0		兼2		
科養目護	養護概論	2後			2	○					1				養護教諭一種の資格を得ようとする者は必修とする。	
	健康相談論	3前			2	○					1			兼1		
小計（2科目）		—	0	0	4		—			1				兼1		
合計（100科目）		—	117	16	52		—	8	4	6	9	1		兼107		
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
看護学科に4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、127単位以上を修得した者。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学系研究科看護学専攻修士課程：
看護援助学コース、看護管理学コース、母子看護学コース、成人看護学コース、地域在宅看護学コース、高齢者看護学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門必修科目	看護援助学特論	1前		2		○			1						兼1	オムニバス
	看護援助学演習	1後		2			○		1	1						
	看護管理学特論	1前		2		○			1						兼1	オムニバス
	看護管理学演習	1後		2			○		1	1						
	母子看護学特論	1前		2		○			1						兼1	オムニバス
	母子看護学演習	1後		2			○		1							
	成人看護学特論	1前		2		○			1						兼1	オムニバス
	成人看護学演習	1後		2			○		1	1	1					
	地域在宅看護学特論	1前		2		○			1						兼1	オムニバス
	地域在宅看護学演習	1後		2			○		1							
	高齢者看護学特論	1前		2		○			1							
	高齢者看護学演習	1後		2			○		1		1					
	看護学特別研究	2通		8				○		7						
小計(13科目)		—	8	24	0				7	3	2	0	0	兼5		
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2		2		○			1						兼1	オムニバス
	看護人材育成論	1・2		2		○			2						兼1	オムニバス
	看護情報管理論	1・2		2		○				1					兼1	オムニバス
	保健医療福祉政策論	1・2		2		○			2						兼4	オムニバス
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2		2		○			1						兼7	オムニバス
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2		2		○			1		1					オムニバス
	臨床薬理・薬剤学	1・2		2		○									兼2	オムニバス
	高齢者看護実践論	1・2		2		○			1		1				兼1	オムニバス
	高齢者看護援助論	1・2		2		○			1		1				兼2	オムニバス
	認知症看護論	1・2		2		○			1						兼2	オムニバス
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2		2		○			1						兼3	オムニバス
	グループ看護論	1・2		2		○			2						兼1	オムニバス
小計(12科目)		—	0	24	0				7	1	2	0	0	兼23		
基盤科目	家族看護援助論	1・2		2		○			1						兼1	オムニバス
	看護理論	1・2		2		○			1						兼1	オムニバス
	看護倫理	1・2		2		○			1	1					兼1	オムニバス
	コンサルテーション論	1・2		2		○			1						兼2	オムニバス
	看護研究方法演習	1・2		2			○		3	3					兼1	
小計(5科目)		—	0	10	0				3	3	0	0	0	兼6		
合計(30科目)			—	8	58	0			7	3	2	0	0	兼32		
学位又は称号	修士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
修了要件は修士課程に2年以上在学し、基盤科目は8単位以上、専門必修科目は各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計12単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学系研究科看護学専攻修士課程：老人看護CNSコース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門必修科目	看護援助学特論	1前			2	○			1						兼1	オムニバス
	看護管理学特論	1前		2		○			1						兼1	オムニバス
	母子看護学特論	1前			2	○			1						兼1	オムニバス
	成人看護学特論	1前			2	○			1						兼1	オムニバス
	地域在宅看護学特論	1前			2	○			1						兼1	オムニバス
	高齢者看護学特論	1前	2			○			1							
	高齢者看護学演習	1後	2				○		1		1					
	高齢者看護学実習	1・2	6					○	1		1					
	看護学課題研究	2通	4					○	1							
	小計(9科目)	—	—	14	2	8	—			6	0	1	0	0	兼5	
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2			2	○			1						兼1	オムニバス
	看護人材育成論	1・2		2		○			2						兼1	オムニバス
	看護情報管理論	1・2			2	○				1					兼1	オムニバス
	保健医療福祉政策論	1・2	2			○			2						兼4	オムニバス
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2			2	○			1						兼7	オムニバス
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2			○			1		1					
	臨床薬理・薬剤学	1・2			2	○									兼2	オムニバス
	高齢者看護実践論	1・2	2			○			1		1				兼1	オムニバス
	高齢者看護援助論	1・2	2			○			1		1				兼2	オムニバス
	認知症看護論	1・2	2			○			1						兼2	オムニバス
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2			○			1						兼3	オムニバス
	グループ看護論	1・2			2	○			2						兼1	オムニバス
小計(12科目)	—	—	12	2	10	—			7	1	2			兼23		
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2			○			1						兼1	オムニバス
	看護理論	1・2		2		○			1						兼1	オムニバス
	看護倫理	1・2		2		○			1	1					兼1	オムニバス
	コンサルテーション論	1・2		2		○			1						兼2	オムニバス
	看護研究方法演習	1・2		2			○		3	3						
小計(5科目)	—	—	2	8	0	—			3	3	0	0	0	兼5		
合計(26科目)		—	—	28	12	18	—			7	3	2	0	0	兼32	
学位又は称号	修士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
修了要件は修士課程に2年以上在学し、必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	超高齢看護開発特講	<p>(概要)</p> <p>現在、日本は世界最長寿国であるとともに、後期高齢者の急激な増加という、世界的に前例のない超高齢社会を迎えている。この超高齢社会における人々の生涯にわたる健康と尊厳ある生活・療養を支援するために、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた様々な健康課題を包括的に捉え、新たな看護ケア方法の開発や理論開発による健康課題解決の可能性を追究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 原 祥子／7回)</p> <p>高齢看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界 ※学生の看護実践に基づく問題意識や以下のテーマに関する国内外の論文クリティーク（システムティックレビュー（SR）の検索データベースJBI CoNNECT+（Aged Care領域など）やコクラン・ライブラリーに収載されているSRのクリティークによる臨床ケアの方向性の検討を含む）を通して、超高齢社会における人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自我発達支援 ・高齢者のエンパワメントの概念と実践 ・高齢者の健康生活評価（包括的アセスメント） ・後期高齢者・超高齢者のQOL評価 ・frailtyの予防・介入 ・認知症ケア ・エンドオブライフケア ・高齢者の家族介護者支援 ・高齢者ケアの質評価、標準化 ・高齢者医療・看護における倫理的課題 ・ケアコーディネーションの理論・方法論の開発 <p>(① 小笹 美子／4回)</p> <p>人々の健康行動の形成を促す理論・アプローチ、地域のストレングスを促進するためのコミュニティケアに関する研究の動向と限界 ※国内外の論文クリティークを通して、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生きがいや社会参加への支援 ・高齢者のヘルスリテラシーと健康との関連 ・人々の信頼関係や地域のネットワークに基づく健康づくり活動の推進 ・高齢・過疎地域における減災 ・高齢期への備えとしての成人保健対策の強化と効果的な健康教育 <p>(53 泉 キヨ子／2回)</p> <p>高齢者リハビリテーション看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界 高齢者の転倒・骨折予防に関するプログラムやシステムの開発における現状と課題</p> <p>(1 原 祥子、① 小笹美子、2 内田宏美、10 津本優子／2回)</p> <p>※安全ケアシステム開発との合同セッション 総括：研究開発による「超高齢看護学」構築の展望</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	安全ケアシステム開発特講	<p>(概要)</p> <p>超高齢社会を支える包括ケアのネットワーキングにおいて、ケアの質・安全を保障する観点から、ケアサービス提供にかかる課題を探究する。超高齢社会における様々な健康課題に対して、保健医療福祉看護関連の制度政策の提案も視野に入れて、安全で質の高いケアを組織的・系統的に提供するためのケア提供方法や人材育成・活用、包括ケアにおける安全システムの開発とリーダーシップ、包括ケアにおけるケア情報システムの開発等々、ケアの質・安全と社会システムとの関係を多角的に探索し、超高齢社会を支える安全ケアシステムの開発や理論開発の方向性を見出す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 内田宏美／7回)</p> <p>※以下のテーマを中心に国内外の文献をクリティークし、超高齢社会を安全管理の観点から支えるケアシステム開発上の研究課題を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ integrated care (包括ケア) のネットワークにおける安全管理システムの現状 ・ 包括ケアシステムにおける安全管理システム開発上の課題 ・ ケアサービスの標準化とケアの質・安全保証 ・ 包括ケアのネットワークへの安全管理システム導入戦略 ・ 安全管理システム稼働によるケアの質評価指標の検討 ・ 包括ケアシステムにおける安全管理者育成戦略と課題 ・ ネットワーク組織論、変革理論、リーダーシップ理論の包括ケアシステムへの適用と課題 ・ 包括ケアにおける看護管理者のリーダーシップ能力開発戦略と課題 <p>(10 津本優子／4回)</p> <p>※以下のテーマを中心に国内外の文献をクリティークし、超高齢社会を安全管理の観点から支えるケアシステム開発上の研究課題を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 超高齢社会における看護情報システム構築戦略と課題 ・ 超高齢社会における安全で質の高い看護実践を支援するための看護情報システム開発戦略と課題 ・ 看護情報システムと安全管理システムとの有機的連動によるケアの質・安全保証戦略と課題 <p>(54 石垣恭子／2回)</p> <p>※以下のテーマを中心に国内外の文献をクリティークし、超高齢社会を安全管理の観点から支えるケアシステム開発上の研究課題を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 療養型医療施設における看護・介護職の実践能力を向上するケア評価システムの開発 ・ 地域包括ケアにおける保健医療福祉情報管理システム構築におけるケアの質・安全保証の戦略と課題 <p>(2 内田宏美、10 津本優子、1 原 祥子、① 小笹美子／2回)</p> <p>※超高齢看護開発との合同セッション 総括：研究開発による「超高齢看護学」構築の展望</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	研究方法特講	<p>(概要) 博士前期課程で学習した研究方法を踏まえたうえで、博士後期課程において超高齢看護学特別研究を行うために必要な研究アプローチについて、看護学に限らず、文化人類学・医学・生物学などで用いられる研究方法を幅広く学習する。また、英語の論文を作成するために必要な基本的ルールと技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 内田宏美／2回) 看護学研究方法の概説 看護学研究における研究倫理 看護学研究におけるアクションリサーチの意義</p> <p>(36 中村守彦／1回) 看護学研究における知的財産と利益相反</p> <p>(8 出口 顕／2回) 古典的エスノグラフィー、批判的エスノグラフィーの特徴と進め方 ポストモダン・ポスト構造主義のエスノグラフィーの特徴と進め方</p> <p>(1 原 祥子／3回) 現象学・解釈学的アプローチの概要と特徴 グラウンデッドセオリーの概要と特徴 国際学会におけるプレゼンテーション(Oral/Poster)法</p> <p>(9 稲垣卓司／2回) 精神・心理学的アプローチの特徴と進め方 精神・心理的発達のアセスメントツール開発方法の概説</p> <p>(6 橋本龍樹／3回) 形態学及び細胞生物学的研究方法 －電子顕微鏡観察法及び免疫組織学的研究法－ 分子生物学的研究方法 －医学的進歩における最新の分子生物学的アプローチ－ 英語論文の読解法と作成法</p> <p>(7 小林裕太／2回) 生理学的研究方法 －最新の医学・生理学の知見と研究方法－ 薬理学的研究方法の概説</p>	オムニバス方式
	超高齢看護学研究演習	<p>(概要) 「超高齢看護学」は、これまで培ってきた高齢看護学や健康長寿を支援するヘルスプロモーションの専門的取り組み等による知見を基盤として、新たに構築しようとする専門分野である。そのため、多角的な文献の分析はもとより、人々の生活の場で生成される健康課題の中から、超高齢看護学が取り組むべき研究課題を予見していくことが重要となる。したがって、本演習では高齢者へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。また、国際的視野の涵養とともに、課題の国際的な意義を検討するために、島根大学協定校での研修等を組み込む。</p> <p>以上の方針に基づき、自己の研究的関心に即した多様なフィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題との関連から自己の研究課題に取り組むことの意義を明確にし、超高齢社会における様々な健康課題の解決に貢献し得る、新たな看護ケア方法や看護実践モデル・理論の開発並びに健康長寿を支える新たなケアシステムの開発を目指した研究アプローチを追究する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	超高齢看護学研究演習	<p>(原 祥子・内田宏美・小笹美子・福田誠司・橋本龍樹・小林裕太・出口 顯・稲垣卓司・多田敏子・加藤基子・倉鋪桂子・小林祥泰・塩飽邦憲・津本優子・福間美紀・嘉数直樹・小黒浩明／30回) (共同)</p> <p>(1 原 祥子／1回) ガイダンス 学生の看護実践からの課題候補の抽出</p> <p>(2 内田宏美／1回) 参加型看護研究Participatory nursing researchの意義</p> <p>(7 塩飽邦憲／2回) 課題解決型研究の基礎的な知識と手法の理解と課題の明確化 ・問題解決技法Problem-solving method ・概念地図法Concept mapping method</p> <p>(1 小笹美子、7 塩飽邦憲／1回) 健康信念モデルHealth Belief Modelなどの行動モデルの超高齢看護学における適用可能性</p> <p>(科目担当全教員／15回) フィールドワークの準備 ・国内外のフィールドワークの場所と方法の決定 ・活動計画の立案：目標の設定、具体的方法とスケジュール、活動計画の倫理性の検討、利用可能な資源（システム・人材を含む）等の検討</p> <p>フィールドワークの実施 [対応教員] ・協定校での研修：ルンド大学（スウェーデン） [小林裕・塩飽] ・医学部附属病院及び関連病院 [福田・小黒] ・大田総合医育成センター [橋本] ・大田市立病院包括ケア病棟 [嘉数] ・老人看護CNSが活動する松江市立病院、松江赤十字病院等 [原] ・島根県内の自治体 [小笹] ・島根大学疾病予知予防プロジェクト [福間] ・島根まめネット [津本] ・島根大学研究機構戦略的研究推進センター『萌芽研究部門』プロジェクト（工・看護・医・福祉の異分野融合研究） [原] ・島根県看護協会医療安全ネットワークを活用したアクションリサーチ [内田・津本] ・その他、適宜 [稲垣・出口・多田・加藤・倉鋪・小林祥]</p> <p>フィールドワーク型研究活動の成果発表 研究計画の発表</p> <p>(指導教員／10回) ・自己の研究課題の明確化 ・各種モデルを用いて設定した課題に即した仮説設定 ・研究課題に関する研究デザインの検討 ・研究方法の検討 ・データ分析方法の探索 ・研究倫理の検討 研究計画全体の構造化</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	超高齢看護学特別研究	<p>(概要)</p> <p>超高齢社会における看護の質の向上並びに新たなケアシステムの開発を目指した研究活動を展開し、博士論文を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。 ・研究計画に沿って、研究フィールド・協力者への適切な交渉と倫理的な手続きを行い、研究活動を展開する。 ・収集したデータの分析を行い、結果の妥当性を検証したうえで、博士論文を作成する。 <p>(1 原 祥子)</p> <p>認知症や運動器疾患など高齢者に多い疾病や加齢による様々な障がいに関わる専門的な看護を発展させるための新規性のある研究課題を選定し、関連する医・工分野と連携・融合したこれまでの研究を基に、新たな研究方法論へのチャレンジを検討しながら、目的に即した適切な研究方法を選択・工夫し、先進的な看護学を拓く論文を作成できるよう指導する。</p> <p>(2 内田宏美)</p> <p>超高齢社会における保健医療・介護の質と安全の向上に資するシステム開発や人材育成システムの開発に関連する研究課題を多面的に探索し、これまで研究を行ってきた社会学や経営学などの関連分野の知見と高齢看護学の融合による研究方法を探索・選択・応用して、目的に即した適切な研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。</p> <p>(① 小笹美子)</p> <p>人々の生活や環境を包括的に捉え、中山間地の特性に応じた健康生活の支援方法を開発するための研究課題と、コミュニティが弱体化している超高齢地域における災害看護の課題に対して、行政機関や医療機関との連携と協働による研究方法を選択し、目的に即した研究方法の検討、データ収集、分析、論文作成ができるよう指導する。</p> <p>(② 福田誠司)</p> <p>高齢期の生活に多大な影響を及ぼす健康問題の一つである白血病を含む血液疾患と先天性代謝異常の専門家として、分子生物学分野における基礎医学的研究成果と豊富な臨床経験を基に、新規性のある研究課題を選定し、臨床医学的手法と基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。</p> <p>(6 橋本龍樹)</p> <p>地域の実情に応じた、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証をするための研究課題を選定し、動物実験による発生工学的的手法や分子生物学解析、生化学データの解析や病理学的解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。</p> <p>(7 小林裕太)</p> <p>超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、健康を支援する環境づくりや健康長寿に寄与し得る研究課題について生理学的研究方法や薬理学的研究方法を選択し、精度の高いデータ収集・解析、論文作成の指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	超高齢看護学特別研究	<p>(8 出口 顯)</p> <p>超高齢社会における人々の健康課題や健康長寿を支える先端医療をめぐる文化的対応の中に研究課題を求め、生命倫理に関する諸問題を文化人類学の切り口で分析した研究の実績を生かし、適切と判断されるテーマについて、エスノグラフィーを行ううえでの倫理と計画的なエスノグラフィー研究を行うための検討、研究計画書の作成、精度の高いデータ収集と分析、論文作成ができるよう指導する。</p> <p>(9 稲垣卓司)</p> <p>超高齢社会が直面している人間関係の希薄によって発生するライフステージに応じた精神・心理的課題の中から、児童から高齢者にわたる精神科医としての診療・研究を基に、支援方法を開発するための研究課題を選定し、精神医学的方法論も検討しながら目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。</p> <p>(③ 多田敏子)</p> <p>高齢者のストレングスの概念を取り入れた生活習慣病予防や介護予防、高齢者の就業・社会交流とQOL、在宅高齢者のサポート授受、介護家族のQOL、地域の特性を捉えた共助力育成や被災者の生活支援など、超高齢期の健康生活を見据えた研究課題に対して、公衆衛生学との連携と協働による研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。</p> <p>(④ 加藤基子)</p> <p>在宅や介護施設で療養する脳血管障害者や要介護高齢者及びその介護者の健康問題の査定や支援に関わる専門的な看護の発展に資する研究課題、超高齢社会における地域包括ケアの担い手となる看護系大学生の看護実践能力育成のための教育方法の開発に資する研究課題に対して、これまでの研究成果を基に、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。</p> <p>(⑤ 倉鋪桂子)</p> <p>高齢期の健康生活に大きな影響を及ぼすがん・脳血管疾患・脊髄損傷の高齢者及び家族への看護、東・東南アジアの高齢者施設における看護及び介護職員のケア認識の国際比較等の研究課題について、目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。</p> <p>(⑥ 小林祥泰)</p> <p>超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中や認知症、難病等の患者とその家族に対する看護、及び、疾病予防に関連した研究課題について、脳卒中の専門医としての医学的な専門知識を基に、新規性のある研究課題を選定し、頭部の画像診断を活用した臨床医学手法と脳血流量の測定を含む生理学的検査を用いた基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。</p> <p>(⑦ 塩飽邦憲)</p> <p>超高齢社会における健康問題の中核をなす肥満、高脂血症、高血圧等の生活習慣病を予防し、人々が健康に老いるために、医療・保健行政・福祉のネットワークによる地域住民主体の健康作りの支援に関わる看護の発展に資する研究課題に対して、これまでの研究成果、および、フィールドワークの成果を基に、主に、疫学的手法を用いたデータの収集・解析・論文作成の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目		<p>(10 津本優子) 地域包括ケア等のネットワークにおける看護情報システムの開発や情報リテラシーを高めるための教育システムの開発に関する研究課題及び安全な健康長寿社会の実現に寄与する観点からの研究課題に対して、疫学統計法・情報学の知見を活用して、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。</p> <p>(11 福間美紀) 中山間地における要支援高齢者や虚弱高齢者の支援、疾病予知予防の観点からの健康支援システムの開発に関する研究課題に対して、地域の医療及び保健機関と連携して行ってきた研究を踏まえ、主に疫学的方法やアクションリサーチを用いて、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。</p> <p>(⑧ 嘉数直樹) 超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証を行うための研究課題を選定し、動物実験による遺伝学的手法や分子生物学解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。</p> <p>(⑨ 小黒浩明) 超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中、認知症、パーキンソン病等に関連した研究課題について、脳神経系の加齢性変化を踏まえた老年医学の観点からの検討を加えるとともに、臨床医学や医工連携による研究方法を探索して目的に即した適切な研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。</p>	
関連科目	地域がん治療学	<p>(概要) 地域がん治療学においては、地域に多い高齢者のがん診療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療の専門家を育成する。がんの診療の基本であるがんの診断、機能評価、患者コミュニケーション、治療適応の判断、緩和ケア、包括的な患者マネージメントについて学び、切れ目のないがん医療を医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるチームオンコロジーの構築と展開について習得することを目標とする。また、プログラムはがん治療認定医機構ならびに日本臨床腫瘍学会のカリキュラムに準じて横断的、段階的に作成されており、本コースを履修することでがん治療に関する認定医、専門医などの資格試験に求められる知識を確保することが可能となる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(27 磯部 威／6回) 山陰地区のがん医療の現状と地域がん対策 病診連携とICT 副作用対策 (1) 血液毒性 副作用対策 (2) 非血液毒性 演習 (模擬試験) 総括</p> <p>(21 並河 徹／1回) 病理学、臨床検査医学、分子生物学</p> <p>(51 磯村 実／1回) 家族性腫瘍、遺伝子診断</p> <p>(20 木下芳一／2回) 消化器がん検診と診断法 高齢者の消化器がん</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目		<p>(22 田島義証／1回) 消化器がんの手術適応</p> <p>(16 鈴宮淳司／2回) 地域におけるがん薬物療法 (1) 外来化学療法 地域におけるがん薬物療法 (2) 地域連携パス</p> <p>(23 齊藤洋司／2回) 終末期ケア (1) 疼痛管理 終末期ケア (2) コミュニケーションスキル</p>	
	がん医療社会学	<p>(概要) がん医療社会学においては、地域に多い高齢者や合併症を有する患者のがん治療学として、最適ながん医療が提供できる医療従事者を育成する。がん患者がその居住する地域にかかわらず、科学的知見に基づく適切ながん医療を受けることができるようにすること、がん患者が置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重して治療方法等が選択されるという、がん対策基本法の基本理念を理解し、患者のQOL (生活の質) や副作用対策についての臨床研究、医療費に関するがん医療社会学、地域での終末期医療や緩和医療学に関して学ぶ。がん診療における「対話」の重要性を理解し、地域医療における多職種によるチーム医療の重要性と実際に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(27 磯部 威／8回) がん医療における対話の重要性 QOL (生活の質) 評価 地域がん医療とチーム医療 地域がん医療における看護師の役割 地域がん医療における薬剤師の役割 ICTを用いた地域がんチーム医療 演習 (模擬試験) 総括</p> <p>(14 猪俣泰典／1回) 放射線治療の適応</p> <p>(20 木下芳一／1回) 消化器がんの現状と地域連携</p> <p>(26 熊倉俊一／1回) 地域がん医療と地域医療医の育成</p> <p>(23 齊藤洋司／1回) ICTを用いた緩和ケア研修</p> <p>(24 椎名浩昭／1回) 泌尿器がんの現状と地域連携</p> <p>(28 関根浄治／2回) 口腔がんと口腔ケア 口腔がんの現状と地域連携</p>	オムニバス方式
	緩和ケア学	<p>(概要) 生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を正しく理解し、早期より痛みや、身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を包括的に評価し、アプローチするための理論と方法について学習する。がんがもたらす身体症状の病態・発現メカニズムを理解し、薬物的・非薬物的アプローチを適切に活用しながら、症状を緩和するケアを提供する能力を高める。精神的苦悩のアセスメントと介入方法、コミュニケーション方法を学び、精神的苦悩を緩和するための技法を学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23 齊藤洋司／11回) がんの痛みの特徴と機序 神経障害性痛の病態生理 内臓痛の特徴と機序 オピオイドの作用機序 呼吸困難とオピオイド 全人的痛みと緩和ケア 主な身体的苦痛と緩和ケア がん性痛の薬物療法 がん性痛の神経ブロック療法 緩和ケアと多職種協働 地域連携と療養の場</p> <p>(17 堀口 淳／2回) がん患者の不安・抑うつ がん医療におけるコミュニケーション</p> <p>(14 猪俣泰典／2回) 緩和ケアにおいて放射線治療の果たす役割 緩和ケアにおける放射線治療の実際</p>	
関連科目	環境医学Ⅰ	<p>(概要) 主体と環境との相互作用という観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に取り組む研究について学習する。研究の方法は「人間レベル」を中心に、生活環境や社会文化環境を含め、人の取り巻く環境と医学医療との関連を検討する。様々な環境で起こる問題を解決するためには、歴史的背景を学習し、そこから得られた技術や経験を理解するとともに、社会集団として国際的あるいは社会的なルール・制度・仕組みを把握することも重要である。問題解決とリスク低減のために、マクロ的視野および環境共生の枠組みに立った展開ができることを学習の狙いとする。環境医学Ⅰでは総論的な内容を主とし、概念や枠組み、社会制度等の理解を重視する。</p> <p>(32 神田秀幸／15回) 疫学 総論 疫学方法論 (1) 記述疫学 疫学方法論 (2) 分析疫学 (症例対照研究) 疫学方法論 (3) 分析疫学 (コホート研究) 疫学方法論 (4) 介入研究 疫学方法論 (5) スクリーニング 疫学方法論 (6) 臨床疫学 生活環境と健康 (1) 空気・水・騒音・気圧と健康 生活環境と健康 (2) 放射線と健康 文化環境と健康 社会環境と健康 (1) 社会制度における保健医療 社会環境と健康 (2) 保健医療政策と人々の健康 労働環境と健康 (1) 労働衛生管理体制と働く人の健康 労働環境と健康 (2) 産業中毒とその対策 労働環境と健康 (3) 産業医・産業保健スタッフの役割</p>	
	環境医学Ⅱ	<p>(概要) 技術化、情報化が著しく進歩した反面、環境問題やライフスタイルの変容、高齢化など種々の問題を抱える現代社会において、身体的・社会的・精神的な面での不適応から様々な健康問題が生じてきている。これら人間の健康に関わる諸問題を“生涯を通じての健康”を目指した健康教育の理念や方法論を確立していくことが求められる。また健康に関わる諸事項について周辺領域を含めて学際的知識と実践技術を体系的に習得し、現代生活に潜む健康課題に対する問題解決能力を養うことを学習する。環境医学Ⅱでは各論的な内容を主とし、各課題に対して周辺関連領域の知識を含めた、深く掘り下げた理解と議論を展開する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目		<p>(32 神田秀幸 / 3回) 環境医学 総論 環境医学各論 (2) 社会と健康 社会環境問題 (2) 飲酒と喫煙</p> <p>(8 嘉数直樹 / 6回) 環境医学各論 (1) 生活と健康 地球環境問題 (1) 地球温暖化 地球環境問題 (2) 化学物質による環境汚染 地球環境問題 (3) PM2.5による大気汚染 社会環境問題 (4) 職業ストレスとメンタルヘルス不全 環境による発がん</p> <p>(52 山崎雅之 / 6回) 環境医学各論 (3) 健康への自然と社会の相互作用 地球環境問題 (4) 生物多様性と生態系の破壊 社会環境問題 (1) 社会経済格差 社会環境問題 (3) 生活習慣 人類生態学 健康政策科学</p>	
	医学・医療情報学 I	<p>(概要) 医学・医療情報学とは、情報学の手法を広く取り入れて、基礎・臨床医学および医療に役立てることを目的とした学問である。本講義では、現在、情報学ではどのような先端的研究がなされているかという基礎的な知識を与え、情報学の基本を習得させるとともに、それが今後どのように医療分野へ展開していくかということを展開させることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(30 津本周作 / 4回) 病院情報システム 診療情報の電子化 サービスコンピューティング データマイニング</p> <p>(49 河村敏彦 / 6回) 検定論 実験計画法の基本的な考え方について 分散分析 ノンパラメトリック統計 判別分析 品質管理</p> <p>(48 平野章二 / 5回) 情報ネットワーク 個人情報保護とPmark 情報セキュリティ 多重比較 生存率解析</p>	オムニバス方式
	地域医療学 I	<p>(概要) 地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあつて地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状をとらえつつ、従来からのアプローチから先端的研究にまでを網羅し、それが今後どのように地域医療として展開していくかということを展開させることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(26 熊倉俊一 / 4回) 地域医療学総論 世界の地域医療の現状と課題 島根県における地域医療の現状と将来展望 地域医療を担う人材育成</p> <p>(15 石橋 豊 / 4回) 地域医療と町創り 地域医療における病院、開業医、診療所の役割 地域医療における病病連携と病診連携 地域医療における保健・医療・福祉連携</p> <p>(18 廣瀬昌博 / 3回) 地域医療に関する研究とその方法 ビッグデータを用いた地域医療の考え方 地域医療に関する研究と医療倫理</p> <p>(32 神田秀幸 / 4回) 地域保健医療と疫学 (1) 地域診断の基礎 地域保健医療と疫学 (2) 地域診断の応用 地域保健医療と疫学 (3) 地域診断を活用した地域医療の展開 地域保健活動の実際</p>	
関連科目	地域医療学Ⅱ	<p>(概要) 地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状を情報通信技術の観点からとらえた情報学的アプローチについて概説する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回) (30 津本周作 / 5回) 医療の分担と遠隔医療 電子カルテを基盤とする地域医療連携ネットワーク 医療情報システム概論 診療情報管理 診療情報の二次利用</p> <p>(49 河村敏彦 / 5回) 品質管理 情報学的なマネジメント技術：情報の可視化 情報学的なマネジメント技術：データマイニング 情報学的なマネジメント技術：統計モデリング 情報学的なマネジメント技術：タグチメソッド</p> <p>(48 平野章二 / 5回) クラウドコンピューティング 医療情報交換のための標準規約 標準化構造化医療記録情報交換規約 医療情報交換に必要なネットワークの仕様 医療情報交換に必要なネットワークの実践</p>	オムニバス方式
	総合診療学Ⅰ	<p>(概要) 地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(26 熊倉俊一 / 7回) 総合診療学総論 我が国・海外における総合医療の現状と課題 Common disease ; 診断と治療・予防 生活習慣病 (高血圧症・脂質異常症) ; 診断と治療・予防 生活習慣病 (糖尿病・メタボリックシンドローム) ; 診断と治療・予防 Common diseaseと生活習慣病 ; 臨床研究のあり方について がんと総合診療</p> <p>(15 石橋 豊 / 4回) 地域における総合診療の役割と病病連携・病診連携 総合診療医の育成プログラム 総合診療とリサーチ 総合診療と国際的視野の涵養</p> <p>(18 廣瀬昌博 / 4回) 総合医療に関する研究とその方法 地域包括ケアにおける総合診療 総合診療と医療倫理 ビッグデータを用いた総合医療の解析と評価</p>	
関連科目	総合診療学Ⅱ	<p>(概要) 地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(15 石橋 豊 / 9回) 医学教育特論 (低・中学年 (1年生～4年生) 医学教育) シミュレータ教育 (1) 医学教育とシミュレーター シミュレータ教育 (2) 総合医に必要な診療技術修得とシミュレータ教育 看護と地域医療 (1) 総合医育成と看護 看護と地域医療 (2) 総合診療と看護 介護・福祉と地域医療 医療行政と地域医療特論 A : 地域医療構想と医療行政 医療行政と地域医療特論 B : コミュニティの成長における医療行政の役割 医療情報システム学特別講義</p> <p>(18 廣瀬昌博 / 2回) 実用医用統計学 (1) 健康に関する統計学の概念と基本 (講義) 実用医用統計学 (2) 研究遂行の実践手法 (ワークショップ)</p> <p>(26 熊倉俊一 / 4回) 地域における健康増進・疾病予防 地域における医療提供体制のあり方 地域の医療を担う人材の育成と支援 地域医療を守る住民活動</p>	オムニバス方式
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	<p>(概要) 高度情報学に関する人間および環境との係わり、それらの研究の動向などについて、情報工学の基礎から現代社会での活用事例まで、講義・セミナー等において学ぶ。さらにその医学への応用については医学情報の持つ基礎的性格を理解し、がんを含む生活習慣病の遺伝学や疫学的研究手法を学ぶことで社会・環境医学の研究法とシステムを学ぶ。また、臨床現場で活用されている疫学や臨床検査学の研究方法、医療サービス設計などを理解する。基礎知識から臨床応用への発展を段階的に理解できるようにオムニバス形式の講義・セミナーで学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目		<p>(29 長井 篤 / 1 回) 臨床検査情報学 1) 医学統計から導かれる臨床基準値の考え方 2) 情報学を活用した最先端検査技術を理解する</p> <p>(21 並河 徹 / 1 回) 生活習慣病の集団遺伝学1: 遺伝子はどのように生活習慣病発症にかかわるか</p> <p>(30 津本周作 / 1 回) データマイニングの基礎</p> <p>(32 神田秀幸 / 3 回) 疫学資料の収集 疫学資料と統計解析 地理情報システムの理解と活用</p> <p>(51 磯村 実 / 1 回) 生活習慣病の集団遺伝学2: 生活習慣病遺伝子の同定法</p> <p>(52 山崎雅之 / 1 回) 生活・健康福祉システムの活用</p> <p>(33 平川正人 / 4 回) 情報活用に向けた人間指向コンピュータデザイン 心とコンピュータ 脳とコンピュータ 身体とコンピュータ</p> <p>(34 石賀裕明 / 1 回) 科学的情報をもとにした環境問題の解明と対策</p> <p>(35 岡本 覚 / 1 回) センサ技術と情報処理</p> <p>(50 廣富哲也 / 1 回) 情報通信技術とアシスティブ・テクノロジー</p>	
	知的財産と社会連携	<p>(概要) 知的財産に関する基礎および応用知識を講義・セミナー・実習等において習得し、さらにはがん医療や次世代看護福祉などの高度医療における知的財産権を理解し、医工連携および看工農連携の研究事例や産学連携による新産業創出についての特論をオムニバス形式で学ぶ。知的財産について学んだ事柄を遂行できる力を培い、将来、産学連携による共同研究等を実施できる能力を養う。医療・看護の質向上に資する知的財産教育を実践し、専門的な知的財産権を活用して社会貢献できる人材を養成する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全 15 回)</p> <p>(36 中村守彦 / 10 回) イントロダクション 知的財産特論 1 (医療分野) 知的財産特論 2 (医工連携) 医・看工農連携による研究事例 1 (総合事例) 医・看工農連携による研究事例 2 (島根大学の事例) 教育研究と社会連携 研究と開発のマネジメント 産学連携による新事業創出事例 看護学を核とした学際融合研究と知的財産の創出</p> <p>(37 阿久戸敬治 / 5 回) 知的財産概論 1 (基礎編) 知的財産概論 2 (応用編) 知的財産権 1 (創造) 知的財産権 2 (保護) 知的財産権 3 (活用)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目	機能性物質・食品の医療応用と環境影響	<p>(概要) 医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきた。本科目では、医学専門家の立場からは、実際に医学に応用され医療の向上に貢献している機能性物質・食品について説明する。特に、生体の恒常性の維持に必須なシステムである免疫系、内分泌系、消化器系に焦点を当て、それらの基本的な作用機序・特性などを医学的・臨床的な視点から概説する。また、理工農学専門家の立場からは、生体内において多彩な機能を発揮する物質の開発や設計、化学物質としての環境への影響について、さらに、機能性食品としての市場性などについて概説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (25 原田 守／2回) 機能性物質による抗がん免疫の誘導とがん治療 機能性食品による免疫応答増強に関する研究 (19 川内秀之／1回) アレルギー疾患の制御に向けた機能性食品の開発と現状 アレルギー性鼻炎の病態や症状について解説すると共に症状を緩和する機能性食品の開発の現状を解説する (31 和田孝一郎／2回) 消化器系と機能性物質 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を解説する 内分泌かく乱物質：環境ホルモンは機能性物質か？ 内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を解説する (8 嘉数直樹／2回) 機能性物質の生活習慣病治療への応用 生活習慣病治療における機能性物質の貢献－現状と課題－ 機能性食品と食の安全 我が国における機能性食品の現状と食の安全への取組み (2 福田誠司／1回) 機能性物質の細胞への作用 機能性物質の正常細胞とがん細胞への効果の相違について解説する (39 田中秀和／1回) 化学物質の環境への影響 (41 小俣光司／1回) 新しい統計手法をつかった機能性物質の設計 (38 半田 真／1回) 機能性色素材料としてのフタロシアニン (40 西垣内寛／1回) 機能性物質の有機合成 (42 板村裕之／1回) 農作物の機能特性と利用 (43 川向 誠／1回) 微生物による食品サプリメントの生産と市場性 (45 鈴木美成／1回) 生体におけるミネラル(微量元素の機能)</p>	オムニバス方式